

出前講座報告書vol.7



平成26年度 保健師等支援研修会
福島県県中保健福祉事務所
2015年1月16日



テーマ 福島における放射線リスク

講義



福島県内の放射線データをもとにした内容で、放射線被ばくによるリスクを学ぶ講義でした。

講師：福島県立医科大学
災害医療総合学習センター
副センター長 熊谷敦史先生

グループワーク



安井先生の進行のもと、講義を受け「今回新しく知ったこと」「住民に伝えたいこと」「自分として一番印象に残ったこと」「もっと知りたかったこと」について、参加者で話し合いを行いました。

アンケート集計結果

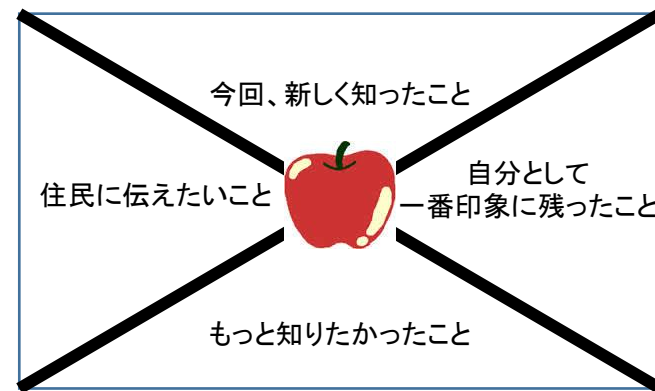
当日参加者20名、アンケート回収20名でした。

評価項目	「(大いに)そう思う」*1
研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	95% 95% 95%
第一部の講義について 福島における放射線リスクについて理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う	95% 90%
第二部の話し合いについて 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%

- ・セシウムは粘土質に吸着、固定される
- ・セシウムは尿に排出される
- ・飯舘村のホーム調査、雨の日は検出されない
- ・お母さん達の心配はいまだにある

Bグループ

- ・福島に住んでいて大丈夫なんです。
- ・肥満児が全国1位とのことですが、正しい知識を取り入れ、安心して地域で住み、暮らせるように支援していきたい。
- ・ネットや口コミ情報のあやうさ
- ・日常生活での発ガンリスクについて



- ・野菜はセシウムを吸着しにくいこと
- ・不安が隠れている人に言えない
- ・セシウムより自然放射性物質による被ばく量の方が圧倒的に大きい
- ・大量飲酒の発ガンリスクは1000~2000mSv

- ・ペットボトルで購入した水は水道水より安全なのか
- ・放射線の被ばくリスク
- ・BqからSvへの換の説明、どう伝えるのか
- ・WBCでの検査結果で基準値以上の方はどれくらいいらっしゃるのか。その後のフォローはどうされているのか。
- ・思考停止してしまう人への接し方

*1 5段階評価：「1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 大いにそう思う 4と5の合計の割合

受講者の感想

- ・ その度々に、細切れに研修を受けたり、知識を身につけたりしてきましたが、ずいぶん忘れていたものもありました。この分野でもフォローアップが必要かと思いました。
- ・ あっという間の二時間でした。講義の内容はとても理解しやすかったです。(新たな情報があり)来年度もまたお聞きしたいと思いました。
- ・ 身近な住民からの質問が折り込まれた内容だったので聞きやすく広げている内容でした。ありがとうございます。
- ・ もう少し参加型の講義の方が眠さが飛ぶと思います。内容が細かく、午後の眠くなる時間なので、お願い致します。日常生活野中で特に気をつけて欲しい項目など教えていただければ良かったと思います。

編集後記

皆様とても熱心に課題に取り組んでくださり、組織・地域全体での放射線の知識の向上が期待されるところです。講義のポイントは、放射線に関する基礎知識だけでなく、福島の実情と住民の方の持つ不安や疑問に答えるという内容でした。後半のグループワークでは、意見交換のテーマを「新しく知ったこと」「自分にとって印象に残ったこと」「もっと知りたいこと」「住民に伝えたいこと」としたことで、お互いに考えていることや疑問に思っていることを共有できたと思います。放射線災害の問題は、まだ終わりが見えないので、この取り組みを今後とも継続してゆきたいと思います。

